

足元照らす「灯ロード」

小松中央LC 木場潟公園に蓄光タイル



蓄光タイルの設置を進める小松中央ライオンズクラブの池上茂雄会長＝小松市の木場潟公園で

今年で結成五十周年を迎える小松中央ライオンズクラブ（LC）が、小松市の木場潟公園に、光を蓄え暗闇の中でも光る蓄光タイルの設置を進めている。縁石や石段に沿って足元を照らし、公園利用者の利便性を高める。同LCは五十周年を機に自然環境の保全と改善など「SDGs」（持続可能な開発目標）への取り組みを強める方針で、十月十七日に同公園で完成式典を開く。

蓄光タイルは、同公園中央園地のメダカハウスから多目的グラウンドにつながる園路沿いに四百十七

枚と、西園地駐車場沿いの石段を中心に百七十八枚を設置する。九月から工事を始めており、一部はLCメンバーも作業に加わる。十月中旬に完成する予定。

同LCでは、環境負荷をかけず防災への備えにもなるとして五十周年の記念事業と位置付け、小松の自然環境保全のシンボリック存在になっている木場潟公園に蓄光タイルの設置を決めた。「灯ロード」と名付け、ウォーキングなど夜間の利用も多い同公園で市民に役立ててもらおう。

同公園中央園地で十月十

七日午前十時から予定する完成式典では、SDGsに関わるイベントも企画。子ども食堂やファミリーコンサート、自然体験型のスタンプリーなどを開く。池上茂雄会長は「これを機会

に市民との関係を強め、地域や環境のためにごみを拾うなど当たり前のことをする輪を広げ、子どもたちに伝えていきたい」と話し、来場を呼び掛ける。

（本安幸則）